

ひまわり

7 2021
JUL



お仕事がんばってます！(第二かめおか作業所)

もくじ

- 2 情勢 細き流れも大河となるような、
亀岡で広がる農業と福祉の連携
- 3 みんなの“思い”届けました！
ちょっと聞いてよ！(第33回)
- 4・5 コロナに負けずがんばってます！
- 6 7 亀岡福祉会決算報告
- 8 私たちと一緒に働いてみませんか？・時・ご寄付

社会福祉法人 亀岡福祉会

○法人本部：〒621-0033 京都府亀岡市蔭田野町佐伯大門30-1

TEL:0771-24-2596 FAX:0771-24-2597

HP <http://www.kamecomyu.net/>

細き流れも大河となるような、 亀岡で広がる農業と福祉の連携

井内 祐治

YUI INOUCHI

 社会福祉法人 亀岡福祉会
 法人事務センター 事務長

私たちがかつて経験をしたことのない新型コロナウイルス感染症は、収束する気配も見いだせないまま、第5波の襲来が危惧されています。地域の夏祭りや催事もまだ開催できないところも多く、ワクチン接種の効果に期待しながらも、学校、地域、職場での日常風景が戻ってくるまで、今しばらく時間が掛かる状況です。

そんなコロナ禍の夏ですが、夏野菜の収穫期を前に農業現場で働く障害ある人たちの姿が、地域のなかで随所に見られるようになりました。「農業×福祉」農福連携の取り組みが少しずつではありますが、農業関係者の支援と協力のもと、亀岡でも広がってきています。農業と福祉双方のニーズと課題に注目し、地域における障害ある人たちの雇用の場や就労の場の拡充となるだけでなく、労働力不足や過疎化といった課題を抱える農業・農村にとっても、働き手の確保や地域農業を支えていこうとする全国的な取り組みです。さらには農作業を通じて、人と人との交流が活発になれば、「わいわい、がやがや」みんな汗を流した連帯感が、人の輪として広がり地域の賑わいに繋がることが期待されています。亀岡でもこの農福連携の取り組みは、数年前からスタートし近隣農家さんとの農産物収穫、曾我部町まる曾たまねぎ、宮前町チヨロギ村とのチヨロギ収穫、保津町での京保藍栽培などの農作業、商品開発などを地域のの人たちと共同で進めています。

曾我部町まる曾たまねぎの復活へ

曾我部町まる曾たまねぎは、亀岡市曾我部町で昭和30年代後半から40年代に掛けて、地域の特産品として一世を風靡した伝統ある玉ねぎです。時代の変化と後継者不足のためまる曾たまねぎの生産量が減少してきました。しかし2018年から曾我部町生産者の方々による、まる曾たまねぎ復活をめざす活動が始まり、じんわり甘くておいしさ詰まったまる曾たまねぎが、時を超えて復活しました。毎年6月に収穫期を迎えるまる曾たまねぎは、昼夜・季節ごとの寒暖差が激しい亀岡盆地で育てられたため、シャキシャキとした歯ごたえと、辛味が強いが加熱するとじわりと甘みが出るのが特徴の、ブランド玉ねぎです。作業所のメンバーは、収穫したまる曾たまねぎの茎と根っこ切りの作業を担当しています。最初は難しかった作業も生産者の方々から丁寧に教えて貰い、一つ一つの玉ねぎを確実に素早く作業ができるようになりました。

ジャパンブルー「京保藍」

藍が育つ保津町での藍栽培が、

農福連携の先駆け

保津町でNPO法人ふるさと保津・京都ほづ藍工房(株)のみなさんと「京保藍」の栽培に参加して、今年で6年目を迎えました。春の藍定植、夏の水やりを藍収穫、秋からの藍干しなどの一連の作

業は、季節の移り変わりとともに、すでに私たちの日常に溶け込んできました。今年も保津町での定植が終わり、藍がぐんぐんと育ってきた6月下旬、京都ほづ藍工房(株)吉川慶一社長の急逝の知らせが私たちに届きました。いつも笑顔で私たちに、「作業所のみなさんと、藍が育つ保津町、藍があふれる亀岡、藍が愛がはぐくむ町にしよう」と語りかけていた吉川さん。吉川さんとの出会いが、農福連携の先駆けとなり、作業所のメンバーと保津町のみなさんとともに、今日まで藍栽培を積み重ねてくることができました。農業と福祉の連携がもつ意味は、やがて人と人との繋がりに、そして地域づくり結びつくと貴重な学びをいただいた気がします。今は細き流れの農福連携ですが、この流れの先には誰もが住んでいてよかったと言えるまち、そんな大河となる期待があります。今できることを一歩ずつすすめ、農業と福祉の未来を地域のみなさんとともに、築いていきたいと思えます。

今後ともよろしくお願いいたします。



みんなの“思い”を届けました！

第44次国会請願署名にご協力いただきありがとうございました！

署名到達：10,550筆

募金到達：339,986円

昨年の12月から取り組んできた今回の第44次国会請願署名・募金運動は、新型コロナウイルス感染防止の観点から街頭署名が全くできず、直接障害者福祉の現状や思いを伝えることができない等、例年になく取り組みになりました。そんな厳しい状況の中でも日頃からお世話になっている地元企業や団体、自治会などたくさんの方々にご協力いただきました。

取り組みの終盤には、緊急事態宣言発令と延長により、より一層人に会えない状況でしたが、できるだけ声をかけていこう！と呼びかけ、メンバーから「署名もろてきたで！」と声が聞こえ、ぞくぞくとメンバー、保護者、職員、企業・団体、自治会から署名が返ってきました。約5ヶ月の取り組みで、10,000筆を超える署名と33万円を超える募金が集まり、改めて地域の方からの理解と共感の輪が深まっていると実感することができました。ありがとうございました。

今回も昨年同様にコロナ禍により直接国会議員に会って署名を渡す請願行動は中止になりましたが、集まった署名は、きょうされん全国事務局に集められ、紹介議員になっていただける国会議員事務所に届けられています。そして、5月27日、28日には、6政党28人の国会議員とオンラインでの懇談会があり、厚生労働省とも5月28日にオンラインで懇談会が開催されました。きょうされんからは、16支部のべ63人が参加しました。

懇談の内容として、参加者から「コロナ禍でイベントが減った為、仕事がへり仕事のやりがいを感じられなくなっている」「早く作業所でワクチンを打てるようにしてほしい」「職員の処遇が低いため、慢性的な人材不足となり十分な支援が困難」といった切実な声が出されました。各政党とも要望として、しっかりと受け止めとりくんでいくという決意の言葉がありました。

だれもが、あたりまえに働き、自分らしく暮らせるように、引き続きみんなでめざしていきたいと思います！

第33回

やまうち たかこ
山内 孝子さん
(デイセンターぼれぼれ)



「ちょっと聞いてよ！」

山内さんはグループホーム「菜のはな」で暮らしておられます。ぼれぼれやホームでの楽しみなど、少し恥ずかしそうな様子でお話してくれました。

「ぼれぼれで楽しいこととはなんですか？」

お風呂に入るのが好きです。泡のお風呂でブクブクするのが気持ちいいです。

「休日にはホームでどんなことをして過ごしていますか？」
サスペンスドラマが好きで

よく見えています。この間、ホームの職員さんとペットボトルでプレスレットを作りました。

「好きな歌、好きな歌手は？」
氷川きよしのズンドコ節が好きです。

「これからの目標は何ですか？」
これからも元気でいたいです。

山内さんは手先がとても器用です。ぼれぼれで作る壁絵づくりやお菓子づくりでは大活躍で、とても頼りになる存在です。絵を描くことや塗り絵も上手で、塗り絵は、可愛いキャラクターから、細かい花の絵まで、なんでもござれ！色使いもカラフルで楽しくなります。

おしゃれも好きな山内さん、これからも楽しい毎日を一緒に過ごせたらと思います。